

いん だ よこ あな ぐん 陰 田 横 穴 群

陰田横穴群は、市街地の西、米子市陰田の米子バイパス米子西インターの西側丘陵に発見された横穴墓群は、昭和57年(1982)に発掘調査され、鳥取県下最大規模の横穴墓群であることが判明しました。

丘陵斜面に発見された大小50基の横穴墓は工事で消滅しましたが、横穴群は未調査の南北側斜面にも続くのが確認されており、数は更に増えると推定されています。横穴墓の形態は、丸天井型、断面三角妻入型、断面三角平入型と小横穴です。

横穴墓からは、主な遺物として各種の須恵器、ヘラ書文字土器、馬具、鉄器、玉類など多数発見されています。墓は古墳時代後期の6世紀後葉から8世紀前葉まで営まれており、陰田地区に住んでいた家父長家族の一団が葬られたと考えられます。



いん だ よこ あな ぐん ぼう
陰 田 横 穴 群 遠 望



ヘラ書土器



いん だ よこ あな ぐん ぜん てい ぶ
27号横穴前庭部



25号横穴墓内部